

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成29年度農作物病害虫発生予察情報について

平成29年度農作物病害虫発生予報第10号を発表したので送付します。

平成29年度農作物病害虫発生予報第10号

平成29年11月1日  
徳島県

I. 果樹  
果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 10月の予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ, クサギカメムシ)の誘殺数は, 勝浦町では第2半旬に987頭と平年と比べて多く誘殺されたが, 第3半旬には平年並まで減少している(図1)。上板町では, 8月第3半旬以降平年に比べて多く誘殺されたが, 10月第2半旬以降, 平年並まで減少している(図2)。

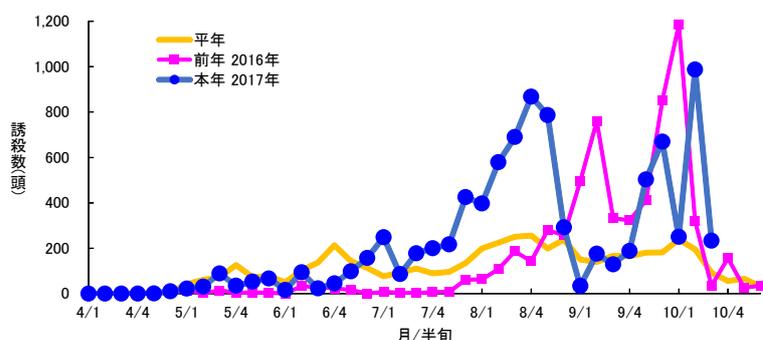


図1 予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(勝浦町)

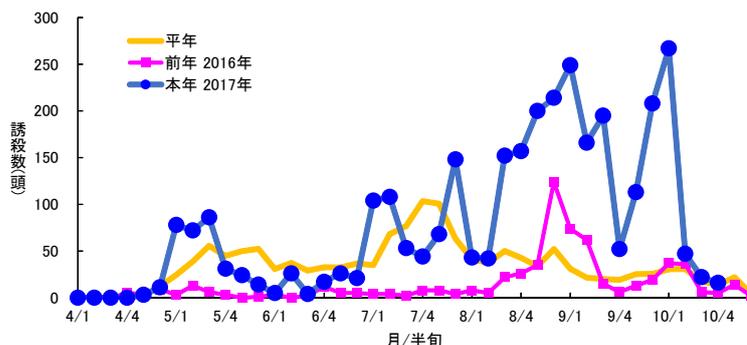


図2 予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(上板町)

(2) 10月後半におけるカンキツ

の巡回調査では、被害発生圃場率が62.5%と、平年(15.6%)に比べて高く、被害果率は0.9%と、平年(0.5%)に比べてやや高い。

(3)10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

(1)温州ミカンやキウイフルーツ園等では、飛来を認めたら早急に防除を行う。

## II. 野菜

### 冬春トマト

#### 疫病

##### 1)予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年並)、発生程度は「少」

##### 2)予報の根拠

(1)10月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

(2)本病の初発時期は平年、11月後半(発生圃場率が11.7%、発病度が1.7)である。

(3)10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

##### 3)防除上注意すべき事項

(1)窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。

(2)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(3)病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉裏を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。

(4)病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行う。

#### オンシツコナジラミ

##### 1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

##### 2)予報の根拠

(1)10月後半の巡回調査では、発生圃場率が10.0%、寄生葉率が0.2%と、平年(31.4%、1.0%)に比べてやや低い。

(2)10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。

#### タバココナジラミ(バイオタイプB,バイオタイプQ)

##### 1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

##### 2)予報の根拠

(1)10月後半の巡回調査では、発生圃場率が60.0%、寄生葉率が6.8%と、平年(42.3%、2.9%)に比べてやや高い。

(2)10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3)防除上注意すべき事項

(1)コナジラミが発生している苗は定植しない。

(2)圃場周辺の雑草は増殖源となるので、除草を徹底する。

(3)施設開口部(出入り口、天窗、ハウスサイド)に0.4mm以下の防虫ネットを被覆し、昇温抑制のため循環扇を設置するとともに、紫外線カットフィルム(侵入防止)、黄色粘着紙(誘殺)、光反射マルチ(忌避)を活用し、物理的防除を行う。

- (4)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。
- (5)ネオニコチノイド系剤の一部(ジノテフラン以外の剤),及び合成ピレスロイド系剤に対する感受性が低いことが報告されているバイオタイプQに対しては,ジノテフラン,ニテンピラム,スピロメシフェン,ピリフルキナゾン,デンプン,オレイン酸ナトリウム等の剤が有効であるとされている。
- (6)薬剤感受性の低下を回避するため,同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (7)栽培終了後は成虫の施設外への分散を防ぐため,薬剤防除を行った上で株を切断し,施設を密閉して蒸し込み,虫を死滅させる。

## 冬春ナス

### うどんこ病

#### 1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い),発生程度は「中」

#### 2) 予報の根拠

- (1)10月後半の巡回調査では,発生圃場率が71.4%,発病葉率が12.7%で,平年(29.5%, 2.0%)に比べ高い。
- (2)10月26日発表の1か月予報では,気温は平年並,降水量及び日照時間は平年並か多く,平年に比べ晴れの日が多いと予想されており,やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1)罹病葉は伝染源になるので,できるだけ早く摘み取って,ハウス外で処分する。
- (2)発生が多くなってからでは防除が困難になるので,初期防除に努める。
- (3)耐性菌出現の恐れがあるので,同一系統薬剤の連用は避ける。

### すすかび病

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない),発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1)10月後半の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期は,発生圃場率 3.1%,発病葉率 0.1%)。
- (2)10月26日発表の1か月予報では,気温は平年並,降水量及び日照時間は平年並か多く,平年に比べ晴れの日が多いと予想されており,やや発生抑制的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1)罹病葉は伝染源になるので,できるだけ早く摘み取って,ハウス外で処分する。
- (2)発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬液は下葉の葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)耐性菌出現の恐れがあるので,同一系統薬剤の連用は避ける。

### アブラムシ類

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1)10月後半の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので,薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

### ハダニ類

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い),発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1)10月後半の巡回調査では,発生圃場率が28.6%と,平年( 8.3%)に比べて高く,寄生葉率が 1.0%と,平年(0.5%)に比べてやや高い。
- (2)10月26日発表の1か月予報では,気温は平年並,降水量及び日照時間は平年並か多く,平年に比べ晴

れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

## ミナミキイロアザミウマ

### 1)予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年並)、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

- (1)10月後半の巡回調査では、発生圃場率が85.7%と、平年(73.5%)並の発生であるが、寄生葉率は5.4%と、平年(15.1%)に比べて低い。
- (2)10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

## コナジラミ類(オンシツコナジラミ,タバココナジラミ)

### 1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

- (1)10月後半の巡回調査では、発生圃場率が85.7%と、平年(55.7%)に比べてやや高いが、寄生葉率は6.6%と平年(7.9%)並の発生である。
- (2)10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。

## 秋冬ダイコン

### アブラムシ類

### 1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

- (1)10月後半の巡回調査では、発生圃場率が30.0%と、平年(29.9%)並の発生であるが、発生程度指数は0.3と、平年(1.3)に比べてやや低い。
- (2)10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

## アブラナ科野菜共通

### 黒腐病

### 1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

- (1)10月前半の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病度が0.6と、平年(10.0%, 0.6)並の発生である。
- (2)10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除効果が期待できない場合が多いので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。
- (2)害虫による食害痕も病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も行う。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 10月後半の巡回調査では, 発生圃場率が52.2%と, 平年(62.9%)並の発生であるが, 寄生株率は 2.4%と, 平年(12.8%)に比べて低い。

(2) 10月26日発表の1か月予報では, 気温は平年並, 降水量及び日照時間は平年並か多く, 平年に比べ晴れの日が多いと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

## コナガ

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 10月後半の巡回調査では, 発生圃場率が17.4%, 10株当たり寄生幼虫及び蛹数は 0.1頭と, 平年(14.0%, 0.1頭)並の発生である。

(2) 10月26日発表の1か月予報では, 気温は平年並, 降水量及び日照時間は平年並か多く, 平年に比べ晴れの日が多いと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉裏に生息しているので, 葉液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので, 同一系統薬剤の連用は避ける。

## モンシロチョウ

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 10月後半の巡回調査では, 発生圃場率が 5.9%, 10株当たり幼虫数が 0.0頭と, 平年(20.2%, 0.3頭)に比べてやや低い。

(2) 10月26日発表の1か月予報では, 気温は平年並, 降水量及び日照時間は平年並か多く, 平年に比べ晴れの日が多いと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 若齢幼虫時の防除に努める。

## 秋冬ネギ

### さび病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 10月後半の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率 1.1%, 発病株率 0.0%)。

(2) 10月26日発表の1か月予報では, 気温は平年並, 降水量及び日照時間は平年並か多く, 平年に比べ晴れの日が多いと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除効果が期待できない場合が多いので, 発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。

(2) 肥料切れすると発生が多くなるので, 適切な肥培管理に努める。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

## 2) 予報の根拠

- (1) 10月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率 4.4%, 寄生株率 0.1%)。
- (2) 10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

### ネギアザミウマ (9月6日付けで注意報発令中)

#### 1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中～多」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬及び9月第1半旬の巡回調査で、発生圃場率、被害度ともに平年より高かったため、9月6日付けで注意報を発令したが、9月後半の巡回調査においても、発生が多かった。今回、10月後半の巡回調査においても、発生圃場率が100%、被害度が10.8と、平年(40.7%, 1.6)に比べて高い。
- (2) 10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

### ネギハモグリバエ

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 10月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%と、平年(88.9%)並の発生であるが、被害度は8.0と、平年(15.2%)に比べてやや低い。
- (2) 10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は有力な発生源となるので、圃場周辺に放置せずに、速やかに処分する。

### 冬レタス

#### アブラムシ類

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 10月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率 21.6%, 寄生株率 1.0%)。
- (2) 10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

### 冬春ホウレンソウ

#### べと病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 10月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (2) 10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 徳島県では、本病原菌レース 1～13まで確認されているため、品種はレース 1～13に抵抗性があるものを利用する。
- (2) 病原菌は被害株上で越冬し、春になると分生胞子を形成して伝染源となる。春先の発生を抑制するために、薬剤を予防的に散布して伝染を防止する。
- (3) 葉が繁茂して軟弱となると被害が多いので、肥培管理に注意する。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 10月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率 15.4%, 1株当たり寄生虫数 0.1頭)。
- (2) 10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難となるので初期防除に努める。

## 冬春イチゴ

### うどんこ病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 10月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率 4.3%, 発病葉率 0.1%)。
- (2) ビニール被覆後は発病好適環境となるため、増加するものと予想される。
- (3) 10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 古葉を早めに除去し、葉裏に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 10月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率 33.6%, 寄生株率 4.0%)。
- (2) 10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 10月後半の巡回調査では、発生圃場率が14.3%, 寄生葉率が 0.3%と、平年(40.1%, 3.4%)に比べてやや低い。
- (2) 10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴

れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているの、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

## 野菜共通

### ハスモンヨトウ

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「中」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 10月後半の巡回調査では、アブラナ科野菜(ハクサイ・キャベツ・ブロッコリー・カリフラワー)では、発生圃場率が42.9%、寄生株率が4.3%と、平年(44.7%、4.2%)並の発生である。また、冬レタスでは、発生圃場率が9.1%、寄生株率が0.2%と、平年(6.8%、0.2%)並の発生である。
- (3) 10月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)は、第4半旬までは平年の約1.2~1.6倍誘殺されたが、第5半旬には平年並まで減少した(図3)。

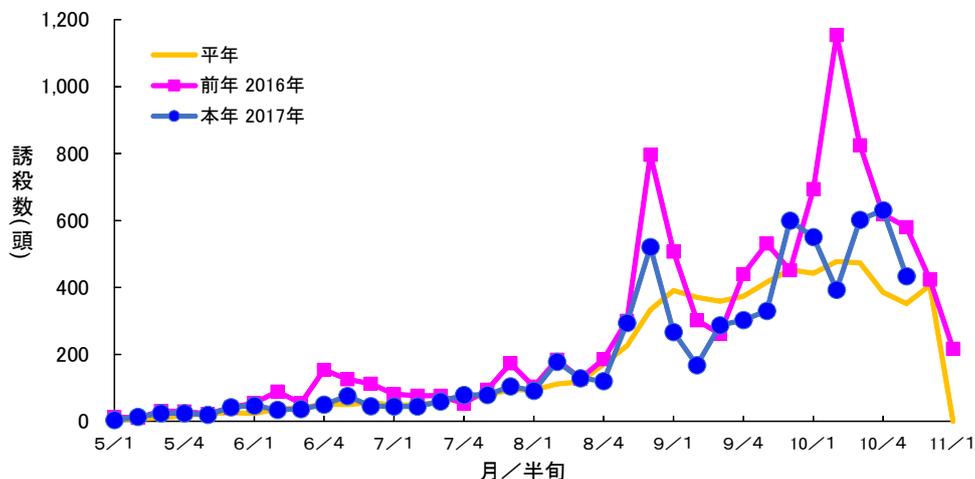


図3 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)  
\* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市の6地点平均

- (4) 10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

### シロイチモジヨトウ

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「中」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 10月後半の巡回調査では、アブラナ科野菜(ハクサイ・キャベツ・ブロッコリー・カリフラワー)では、発生圃場率が10.0%、寄生株率が0.3%と、平年(8.6%、0.7%)並の発生である。また、冬レタスでは、発生圃場率が18.2%、寄生株率が0.4%と、平年(1.5%、0.0%)に比べてやや高い。
- (2) 秋冬ネギでは、8月後半~9月後半まで発生圃場率、寄生虫数ともに平年に比べて高かったが、10月後半の巡回調査では、発生を認めなかった。
- (3) 10月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)は、第4半旬までは平年に比べて多く誘殺されていたが、第5半旬には平年並まで減少してきている(図4)。

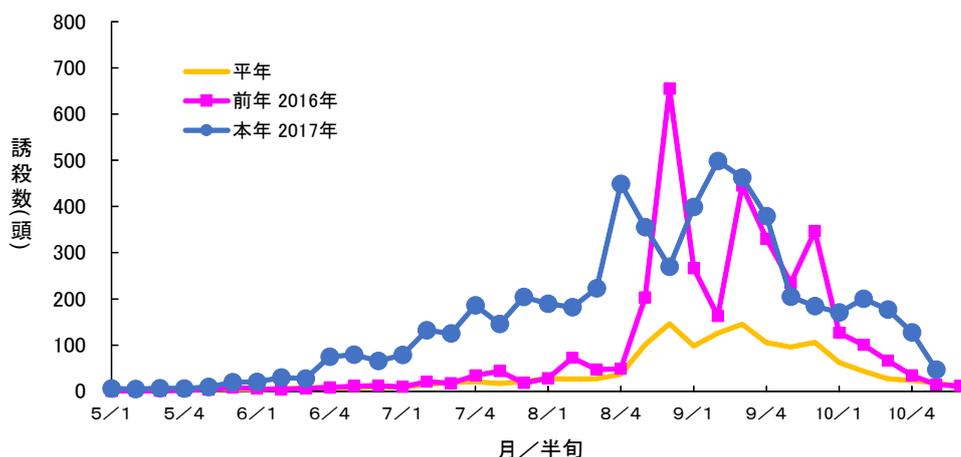


図4 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)  
\* 徳島市, 石井町, 阿波市, 吉野川市の6地点平均

(5) 10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

## オオタバコガ

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

### 2) 予報の根拠

(1) 10月後半における冬レタスの巡回調査では、発生を認めていない。

(2) 10月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は、第4半旬までは、平年の約1.6～1.9倍数誘殺されてきたが、第5半旬には平年並まで減少してきている(図5)。

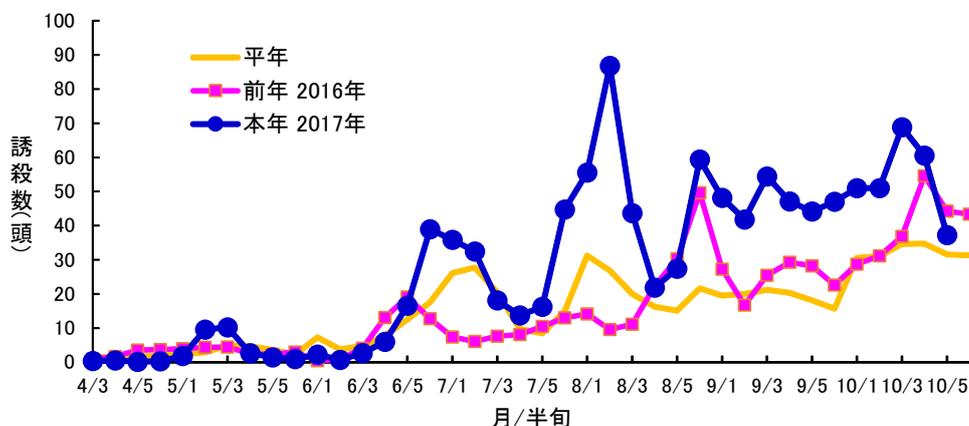


図5 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移  
\* 阿波市, 三好市, 東みよし町, 石井町の7地点平均

(3) 10月26日発表の1か月予報では、気温は平年並、降水量及び日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 結球野菜では、幼虫食入後は薬剤の効果が無いので、結球直前までに、使用基準に基づき必ず薬剤防除を行う。

## II. その他

1. 薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守すること。

**発生量の表示**

**発生程度：甚>多>中>少>無**

**発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない**

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所  
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病虫害の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。